



それは  
幻のまじな



おみやげ

腕に手をつないで

歩くような速さで刻んだ

だけど確かになにか

これ以上 お前を悲しませるわけにはいかないから





……それで  
彼は士郎と  
どこで会ったか  
言っていたのかな？

……どうも……か……



……は……  
いちどだけ  
……夢の中で



……  
命つたと  
言っていた……



それは  
どうして……

ああ……

あつ……あつ……  
しろう……は……

……  
再び  
死に別れた時……



……  
また私が  
傷つくのを……

……  
願じておるのだ

だから……あ……

ああ……  
それは面倒くさい  
ねえ……





世界は美しい



我が最愛の  
サワグアントに  
会えるも

今日  
三時まで



そしてそれ以上に残酷だ

最後の最後で  
令呪を使いおっ……



オレは一体いつまで苦しめば

ばかもの……









やっぱ  
コレだわ

アサヒイ!  
スーパードウ  
ルアアイ!

最高

最強

最高で最強

どうだい  
爺さん

二十一世紀の  
ビールってやつは

この王様なんか  
野球に影響  
されちゃって



ノドに  
詰まらせる  
なよ!

おめえは  
団子食いね  
なんでも  
いいんだろ!

……して  
エドの刀工  
とやら

どうだ  
カルデアは



飲むんじゃ  
なくて一輪扇の  
口から吐き出すのに  
ハマってたの

アハハハハハ  
余のアラックな  
ヒストリーを  
聞くでないぞ  
勇者よ

メツチヤ  
団子に  
合うの……!

このビール  
ってやつ



——其は

肉を断ち

骨を断ち

命を断つ鋼の刃にあらず

我が輩が求めるのは世因の清算

宿業からの解放

かつて求めた究極の一刀

業を切る

定めを切り

縁を切り

我が人生の全ては

この二振りに至るために



あの時

オレは興奮で  
跳い上がってて

村正さんが  
別の誰かの  
体を借りてることを  
忘れてました



ギルガメッシュの  
言葉を信じて  
あげずに

おっしやってる  
シロキさんとは  
全然違うかと!

人違いだって  
決めたつた



ギルガメッシュは  
オレを信じて

力を回して  
くれてるのに



…酷い話  
ですよ

こんなの  
マスター! 実格  
だらって!



ただ  
次会った時は



だから  
この件は  
オレが何とか  
したい

村正さんは  
ギルガメッシュの  
事知らなくて  
当然だから

腹にしないで  
いいんですけど

その  
奴が

あろう事かッ

この我の身を  
案じるなど！

まことに  
暖かった

粗末な  
布切れ一枚が  
首に巻かれた  
だけだ

ビロードの毛布  
でもなければ  
上等な毛皮でもない

……であるのに

これひとつや

寒さを感じなく  
なったのだ



ギルガメッシュユ...!!



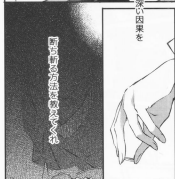


——  
ああ神さま











大層なことを

.....

深かない顔を  
しているお



...アリン

.....



果実を  
刺さるか

それとも  
コービーでも  
飲むかい?

王さま



# STARDUST LOVESONG

上+下再録 Presented by SpringLOVE  
FGO unofficial fanbook









……ツ  
士郎

……  
会いたかったや

ずっと  
会いたかった……

……  
ああ……十郎

よもやまた再び

……  
こうして  
会えるとは……

あまつさえ  
何故も身体を  
重んず

望まれば  
口付けだって  
した

それもこれも  
士郎を取り戻し  
たいが為にした事

他意など  
欠片もない

だがしかし  
これでは

強取ったも……

同然ではないか……

……とりあえず  
落ち着こう  
ギルガメッシュ

大丈夫だよ

いや……ダメだ

言ってしまった

殿に心からの  
愛の言葉を贈られ

どうも

だって村正は  
キミの事を  
英雄王だと  
思っ  
てるんだらう？

それを  
受け取るべき  
者が他にいると



真様：実は  
士郎の先相だったり  
するのではないか…

よいか士郎には  
何處も言つた事だがな

サーヴァントは  
ちよつとやそつとの  
事では死なぬ

助けようとするその  
心がけは殊勝だが

少しは  
己の命を…

…なつちまった

サーヴァント



匂いが

僕に似てる

僕を見る  
その瞳に映るのが  
別の男でもいい

愛した誰かの  
代わりで結婚

僕が傍にいきたい

僕かでも  
この美しい花を  
殺しはかないで  
やれるなら

終わるまで  
共にいきつた  
覚悟を決めた



奴がいるだけで  
空気が重々々

燻く金色が  
この無機質な  
部屋だけじゃな



心までも  
照らすようになった



全く同じ声と容姿を持つ別人

その言葉は

我に言っただけ  
ならぬ……





黄金の  
ではないか!!

黄金の!



おっ!!



どうしたのだ  
その格好は  
貴種らしくもない



であれば  
余も混ぜよ!

地味すぎて  
目を惹かさねば  
貴種と判別でき  
なんだぞ!

なんだかのも  
また何かの  
権いべんか?  
か?でも



だがかような  
王らしからぬ  
風体では敢に  
言えても文句は  
め





……だが

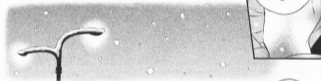
私も死んでな



寒さなど  
感じたことが  
なかった



一人になった



そんな時であった

しかし  
世を顧べた  
王として……

どんなに  
悔みであろうとも  
自害だけは許されぬ



そうする物  
なかったとは  
いえ

敵を殺せ  
コケにしてくれた  
運轉の小僧と  
不本意な契約を  
交わし



どんなだったぞ  
あの時は！

構わないわ  
罪いわ！



……考えてみれば

さっきは大口叩いて  
アンタを守るなんざ  
偉そうな事ぬかしちまうたが

そもそも  
偉は法だ

少しでも力が欲しい

せめて鎧兵を隠れるだけの

なまへんがまはま

金屋に回ると  
とらぬががががが

……

……書は急げだ

手に入れに  
ならねえ

守れるものさ

守りたがるものを







# STARDUST LOVESONG

上+下再録 **R-18**  
成人向

UBWギル√if上金前提

千子村正(衛宮士郎)×ギルガメッシュ(術)

+マーリン×ギルガメッシュ(術)

FGO Unofficial fanbook





こいつが  
孫なわけねーだろ

いやいやいやいや  
まさか



あ??

なんだそれ



いいわね

今日も  
お供さんに  
来てもらって



お願いは.....

だって  
こいつは



本当にすっごいたのか

死ぬまで



ああ

MITSURU



ナカはまぐさの  
一面を味いしきり  
みたいぞ

群居するにふさわしいんだ



この世にふさわ  
いられぬが、  
泣いても

おまえは  
動かしすまで  
泣いちゃダメ



懐かしいなあ……

本音に  
かわいいなあ……



もじかして  
痛がごめんのス

んなの

もう  
数え切れない  
くらいじてる  
だる

俺たち

心配するなっつ

ちやんとおまをばかへしてやるから

俺たちの  
体の相性が悪高なの

おまえだって  
知ってるだろッ



僕のものに  
なってくれ



僕が

セイバーで  
召喚されたのは



さっさと  
逃げやう

アンタを  
守るためだ



ならぬ……



ならぬ……



……その言葉は

目を瞬時に閉じたのは  
たまたまだが、たまたま深く呼吸を止



それが誇りであり  
楽しみであり  
生きがいであった



陰謀茶屋  
あなたも三郎だいで  
行きでいってほしい  
（こたあねえ）



吉原の花魁にして  
さほど調子を  
そそられぬえ



なつた一度  
酔った勢いだと  
してもだ



それがどんなに  
べつびんだらうかが

この備が  
野郎に忖される  
なんざ

天地が  
ひっくり返ったって  
あるわきゃねえんだ



…んんんんん

…んんんんん

あむんんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん





フハハハハハハハハハハ  
自分に負らえよ士郎

アルジメナ

早く聖杯を持って帰る  
こやつは最強のセイバー  
にせねば気が済まぬ！



それから村正とは

今後の事について  
じっくり話さないと



なんとなく  
ギルガメッシュに  
Hしたいか聞いてみたら

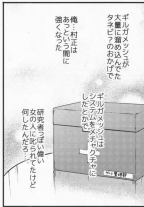
そりうのは  
アツキに任せよ

ものすこ〜く  
断れながらお断りされた



その代わり  
報酬では守らせて  
ほしいどの事だぞと

なんでも  
ギルガメッシュと  
約束した方がいい



俺…村正は  
あつたという間に  
強くなった

ギルガメッシュが  
大量に猫め込んでた  
タネピアのおかげで

ギルガメッシュは  
システムをメチャクチャに  
したとかで

研究者っぽい面白い  
女の人に叱られてたけど  
何したんだろ…



あの後ちよつとした  
事件もあった

さっ

さっ

…そして

立っていた

S T A R D U S T







……手の温

隣にいて  
あげたほうが  
いいのでは  
ないかな？

温の……



……あのセイバーは  
どうしている

……って普通だ

武蔵や流刃と  
共にいることが  
多いのは特異点の  
裏がらだろう

アルトリアや  
イシュタルに  
対しても  
反応はないか

……らんと  
……主と合意の  
……上なのか  
……疑わしいほどに

うん……  
彼の精神を  
覗いてみた  
けれど

……村正の裏面しか  
……感じられなかった



……存在する……  
……うまいこと自覚の  
……させられれば

……いい方向に  
……運ぶの……  
……しれないが……





私はギルガメッシュ

お前の顔が可愛いわ

……ギルガメッシュ……



普段あんなに  
エラソーなのに  
聞くわよ



まあ  
ギルガメッシュにも  
きつと色々  
あるんだろうさ



……まあか

……あれのせいかな？

お前ちゃん  
どうかしたの？

もしかして  
アイツと  
知り合い？



いや……  
抱きつかれた

おひ……

刑部ちやああ  
ああああああ  
ああああああ

既読ッ既読ッ  
スライッスライッ

お前ちゃん……

!?

どうか生まれ変わったらまたこの人に合わせてください

STARDUST LOVESONG

後編

士郎では  
ないのだ……



親友の死を聞いた逸話……

あるいは



不死を求めて始めた旅の伝奇さえ



あの忌々しい  
叙事詩さえなければ

かようなまでに墨墨を傷ませずとも  
済んだかも知れぬのに





日本の  
江戸時代の  
刀鍛冶の

千子村正さんです

おっしゅつである  
シロウさんとは  
身分違うかと……

ええと  
天皇さん以外で  
シロウって  
聞かいたかな！

ギルガメッシュ王……

嘘は  
黙っている

と取り込み中  
申し訳ないん  
ですけど……

ごめんなさい！  
そのでもっ  
あのですね！っ

その方は  
シロウ？って人では  
なくてですね！

……  
あの……



いざ  
かきかき

うんうん  
うんうん

生きてるなら

だの言葉するから……



死ん……



こんな所に……

なんでおめえが



もう大丈夫だ  
安心しろ

部屋まで  
連れて帰って  
やるからな！



気がついたか！





心行くまで

好き夢を見よ

士郎



男をもてなすために  
あるような身体だ

髪が白く雪の

毛先からつま先まで  
美しい雪の肌



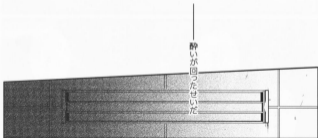
備は

俺は

どれ程  
気持ちいいかを  
知ってる

ヨイツの身体が







ギルガメッシュは  
二人いると  
言ってしまった



マリーナ…

我は  
どうすればよい

誰れ共にとり  
思われようが毛裡も  
気にせぬ

だが

英雄王に  
恨まれることだけは…

それだけは  
耐えられぬ…っ



「買ったばかりだから運命」なのかい

訳の分からぬことを士郎はのたまっておったがな

献上品を返す道理などなからうそれは適当にあしらい

今まで愛物庫で大切に保管しておったのだ

確かに偉き悪い出だな  
おれるには惜しい……

いつまでも過去の残影に囚われている訳にはいかぬ

あれは士郎ではない……

……だが同じだけで……

てくした男一人でこの有様では英雄王の多折れだ

……





……  
わかったよ

僅かな  
夜の時間  
だけでも

僅かな廻りを  
キミに約束しよう



## Attention,

これは、村正がカルデアに召喚された場合を勝手に想像した、UBWとマリキルの士金が発現になった超伝導マリキルメッシュ(号)とそれを保護者のように見守るマーリンとマリキルメッシュ(号)の間にこじれまくってめんどくさい事になる本です。

いわゆるがな探偵あみれ。

士金とマリキルが敵役ですが、色々あり魔王が村正に神聖婚研行為を行います。

この本は成人向けです。高校生含む18歳未満の方は見てはいけません。





：ワフ  
それだな

この  
マツラーは

士郎が僕に  
初めて献上した  
ものなのだ

関約してから  
まだほんの数日  
という時に

日本の冬は  
さむい

毎日のように  
雪が降っていた

積もった  
雪の上は  
砂漠の砂とより  
歩き難く

慣れるまで  
苦悶したわ

前のマスタが  
生きていた頃は  
寂しくついでさえ  
いけばよかった

君は僕のために  
何でもするような  
男であった

コタツなる  
人類史上最も  
偉れているであろう  
発明品を君のために  
お取り寄せし

ホツカイロの  
函を開き

それから  
ビロードのような  
高級毛布で  
備へともてなし…



必ずまた  
会えるという希望を  
与える為に

もう達がざねエネ  
スソガキ

デメエには  
何が何でもアイムに  
会ってもらう

ギルガメッシュには  
アンタを置いていて  
もらう必要があった！

そしてアンタは  
待ったんだよ！

デメエでないだろクマなんだ

ありのままの姿で  
装置になれる  
チャンスをも！

そこに村正が  
現れた

幾多の夜を  
超えてキミの  
祈りはアラヤに  
届いた

喜びなき  
少年

両者が  
互いに信じ合い  
手を取り合える  
最高の世界で

デメエでないだろ

キミはまた再び  
愛する者と共に  
歩むことが  
出来るのだから





なっ……！！

何なんだよ  
お前……ッ！

俺はもう  
死んだんだから

テメエ……ツ

それも  
できない

あいつとの  
記憶は

覚えてやがんなら  
せめて記憶を僕に  
共有しやがれ！

こっちは  
やり辛くて  
しょうがねえ  
んだよ!!

軽々しく  
そういう事を  
していい  
ものじゃない!

おいテメエマ!

待て!

*STARDUST LOVESONG*

- 00 編 -

---

END



この太陽王を  
無視するなど……っ

なっ……

貴様ッ



如何に英雄王と  
言えど許されぬぞ……っ

……



はあっ！

はあっ？

はあ……

は……



A

A A

……





まったく

扱いねキミは



一人だけ  
虚妄の世界に  
逃避して

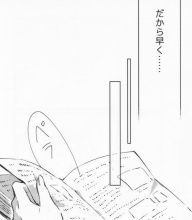


なるほど  
それが

キミを  
この世界に  
押しとどめる  
くびきになる  
わけか



……おいら



だから早く……



……何故か  
「さっさと」

やだよ……

もうやめる……

さっさと出てい  
れなきゃ



いい加減  
この異国の兄ちゃんが

いやあ……



やだよ……

可成悪く思ってるわが

……あつ









ハッキリ  
会いたかったって  
言え!!



合点

何の言葉も



あなたが  
ギルガメッシュに  
合点三回九ごと  
使って!



本当は  
会いたかった  
んだらうが!

向き合え  
ちやんと!



何の言葉も  
何の言葉も  
何の言葉も  
何の言葉も  
何の言葉も

あーっ……

これは真実だ……



ギルガメッシュが  
抱えた宿命を  
終わらせる  
ためだらう?

よくわからんが

まあいい



あなたが  
記憶を  
残したのは

口が勝手に動く……

容易く  
崩れ去る

やみくも……



やみくも……

まやかしは  
虚空へ還そう



やめてくれええええ

そろそろ夜が明けるから



……

……





.....



あああ

話し方も  
変えた方が  
いいか？

あいつあ  
どんな風に喋る  
んだったか.....



ウ

ウ



.....  
キル

他に  
痛いところ  
ないか？



おまえの美なら

何だって  
するからさ



何でも  
言えよな



なにか他に  
して欲しい  
事があつたら

宝具

な

都牟刈・村正……!!

僕の言った通りだろ？















……ふむ

おじいさん



アルジュナに  
ゴイコット  
されたら

いよいよ  
現場が回らなく  
なるぜ?



まあ今は  
別段何かの  
イベントがある  
訳でもなし

のんびり  
構えてても  
いいとは  
思うけどお

うーん  
困ったねえ

體が  
愛し  
たか  
つた  
のは……

もう  
顔  
分  
前  
の  
よ  
う  
に  
感  
じ  
る  
あ  
の  
日  
か  
ら

お  
め  
え  
は  
す  
ま  
ま  
一  
人  
か

あ  
の  
日  
か  
ら

お  
め  
え  
は  
す  
ま  
ま

会  
い  
に  
行  
き  
て……

あ  
の  
日  
か  
ら

あ  
の  
日  
か  
ら

行  
く  
た  
ら  
あ  
の  
日  
か  
ら  
何  
話  
し  
が  
あ  
い  
い  
ん  
だ

突  
然  
押  
し  
か  
け  
て  
あ  
い  
い  
に  
話  
し  
た  
ら  
そ  
の  
く  
り  
そ  
の  
ま  
ま  
行  
え  
る  
話  
に  
あ  
い  
か  
る  
エ  
な  
る  
話  
に

本  
日  
は  
お  
日  
柄  
も  
よ  
く

……  
よ  
く  
ね  
え  
外  
も  
吹  
雪  
だ  
な

ま  
ず  
は……  
謝  
る

あ  
の  
日  
か  
ら

あ  
の  
日  
か  
ら

突  
き  
放  
し  
た……





そんな事より今は

士郎っ

それはまた別の話だ

ま、

士郎！

このわがままな  
天使を日やがすこで

手一杯だから

我は  
さばみそが  
食べたいぞ！



神さま



ああ

んー。おまえホント  
かわいいなあ  
可愛好きだよな  
いっ！

キョウ



発行：SpringLOVE(株) 印刷：トム出版さま

Mail | [info@springlove.jp](mailto:info@springlove.jp)

Twitter | [spr\\_love](https://twitter.com/spr_love)

Facebook | [springlove.jp/](https://www.facebook.com/springlove.jp/)

http://springlove-info.entmode.jp/

©2015 SpringLOVE(株) All Rights Reserved. 01



ミチ

L O V E S O







ここカルデアには

もう一人ギルガメッシュがいる



俺の  
ギルガメッシュより  
ずっとなおやかな  
雲田だぞ

神々しいほどの  
美しさを選んだ  
その人は



もちろん  
俺には目も  
くれない



……あいつは

どこかで  
会ったことがある……

……あいつ



リラククス  
だよ

……

あ……あ……

そのまま  
何を話したか  
覚えて……？



……覚えて……

覚えている……

……



むら……あの……  
士郎は……あつ

あつた……

えん

言っていた  
……



えん

……

あつ……  
士郎は……英雄王を







夢想など



所詮は幻

夢い一時の  
夢にすぎず



出来はしないよ

永久に纏り続ける  
ことなど



こうして  
私のようなものの  
侵入を許しただけで



我に言っては  
ならぬ…!!

いや僕は  
アンタに

以て覚えておくがいい  
願望の刀工よ

カルデアには  
ギルガメッシュが  
二人存在するということを

我らは  
姿も声も同じ故

密宮士郎を  
目覚めさせる  
ために

もう一人の我に  
なりすまし  
貴様を欺き続けた





乗り換えられた筈だった



それだけで

よかつたのに



……あ……

しるき……



……あ……

このままなら再会など  
望んでいなかった

十郎……



奴と歩んだ日々は  
美しい思い出として  
この胸に仕舞い

時折密やかに取り出しては  
美術館のように愛でながら  
それでよかった

世界を  
救うためには

あなたの力が  
必要なんです

「こじくした人の想いが  
生きている人を動かす  
力になる事だつてあるよ」

死は必要なものだつと



静止した  
時の果てで

そのマスターは

とても良く似た目をしてた

正義を闘つたお前なら

世界の破滅にもきつと立ち向かうだろう

そう教えたお前の想いは  
失われずに此処にある

……よからう







俺の心ごと



貴様の真心を  
受け取るに相応しい



殺と違つて  
人を欺くような  
悪かな真似は  
せぬ



頭が

生命は  
必ず死ぬ

これは呪いだ

死の呪いは  
容赦なく  
この手から  
大切なものを  
奪っていく

全てを手にした  
自分は

喪失には  
慣れていなかった

世界の何処かに  
不死の薬草が  
あると云う

国を捨てて  
旅に出た

残酷な呪いに  
打ち克つ術を  
人にもたらそう

自分は  
神と決別した  
人の王であるが  
故に

誰もが  
喪失の痛みに  
慣くことのない

憂いのない  
理想の都を  
築いてみせよう

人に不死を  
もたらそうとして  
無様にしくじった  
王への



これは  
罰なのだまじか

せーの……っ

かんぱーい!



ぐちやぐちやで  
壊れそーうだ



とんだ巻き込まれ洞

僕にさういふお話を聞かされたらどう思うか

士郎

今日も赤眼の白魔が

とくとち  
味わうがよい

さあ……

この身体……

備前狂わせにやってくる



泣きたいほど  
頼れ親しんだ  
魔力が呼んだ

俺の命の代り

どんなに離れていても  
おまえがどこにいるか  
分かる



クンッー

俺はバカだー

あーめんー



なんでっ  
なんで今までのっ

早くー

会いたいー

会いたいー

会いたいー

会いたくて死ぬ

……



……  
……若き彼も  
きつと今頃

愛しい男に  
手を撫られたいと  
……



髪を  
撫かれないと  
思っているで  
あろうな……



この髪色が  
何より彼女に  
似てきているか  
いふ……と考

我が一番よく  
分かっている

あのような  
やり方で  
古傷を聞かれては

いかに英雄王とて  
堪えるというもの

貴様を見送った  
あの時……



この身が  
削かれるような  
思いであったぞ



目を閉じると  
何故も脳裏に  
浮かんでくる

あすな



赤褐色に  
染まる

赤い瞳

あんな  
異国人の  
知り合いは  
いな

幾度となく  
生前の記憶を  
遡っても

思い当たる  
節はない

しかし何故だか  
無性に胸が痛む

もやもや  
もやもや

頼むしいつたら  
ありやしのエ

土郎

胸が痛い  
再建できるか

土郎

あーあーあー

名前を呼ばれる  
だけで泣きだす

…帰るのか  
……？

あんな  
涙みずけたら  
今日は……

そうか……では





泣きたいほど  
懐かしい魔力を  
感じた

熱した鼓のよみに猛々しく



春の日差しのように  
やさしくて温かかった

熱した鼓のよみに猛々しく



きう

二度と会えないと  
諦めていた人が



# 宿業を断ち切れ

その方は  
シンロウって人では  
なくてですね

俺ア主情  
無味と吹きまう  
意味はねえんだ

これは、村正がカルデアに召喚された世界線の  
UBWギルロードイブを前提とした村正×英雄王  
ぶたりを弾くマリキル  
4人それぞれのセンチメンタルな恋模様を  
捏造に捏造を重ねてお送りする本です

STARDUST LOVESONG 前編(2018/03/18発行)に続く後編で  
前編よりさらにシリアスな内容となっております

この本は成人向けです  
高校生含む18歳未満の方は見てはいけません。

2020年8月現在、本編で村正が本当に本当にカッコよも活躍し出版を終えたので  
これはその記念の所縁になります。  
読みたいとメッセージを送ってくれたみなさま  
お待たせしましたありがとうございます！



長きに渡る

果てない旅の終わり



朝の夜  
の死  
と  
生  
死



その結末は  
永遠に  
永遠に



士郎



舌先に球を置く様子



ああ……ごりゃ  
お前さんの記憶が



なんだ……？  
病でも患ってたのか？

あり

藤原さん



士郎

体調はどうでした？







だかの

あーあ……

やあ……

これは僕の意思じゃあな



てし……  
体に馴染むのも

は……

びーるやらの  
口に合うのも



この身体が

あああ……

ああ……

は……

欲しくて欲しくて  
たまらねえのも



あんたも  
一緒なら

その  
「アム」も  
アムはな……



ぜんぶ  
この体の主の  
せいだつてんなら

ああ……あつ

仕方ねえ

あ……



なんであんな  
断崖絶壁の上に  
いたんだよ

魔力もまだ  
回復してないのに  
危ないだろ

……

……それにしても

お前がかって後に  
献上した量の運糧の  
給料三ヶ月分で購入した  
売却したとて大して  
金にならぬ格輪を

測を持って  
取り戻せようと  
していたなどとは  
口が裂けても  
言えぬ!

……  
嘘!?

おまえアレまで  
まだ持ってたのか!?

すごい!  
見せてくれよ!!  
なあ!



**fin.**

*STARDUST LOVESONG*

— 後編 —



あんな可憐な  
女子に言える訳アねえ



「野郎とやりまくってる  
からさず」

なんて



「寝不足なのは」



任き  
夢を見よ

全てが変わっちまった

あの晩から







他当たってくれや

儼ア生憎  
野郎と抱き合う  
趣味はねえんだ



手足の先が  
凍りついたような  
気がした



ずっと  
おれないうち

俺と  
過ごしてきた  
思い出を



この三冊が

お前の前にやれる  
気持ちだよ





そう  
都合のよい方法は  
思いつかないねえ



下脚

まだ  
分からぬか



王の口から  
何處も同じ言葉を  
聞かせるなよ  
捕縛装置が

胸が刺がれたと  
言っておろうが



アザトキ



去れ

戦いには  
出ぬ



私が  
目覚めるまで



そこで  
見張りでも  
しているが、い



おっおい  
どうしたの

泣くなつて！



しばし待む







たくさんの祝福と希望が降りますように







マスターの傍に

ギルはさ

ああ見えて  
寂しがり屋  
なんだ



王様としての  
思案があるから



ああして  
強がつてるが……

元から  
大事な人の死を  
乗り越えられる  
ようにできてない

だからさ

ミロウ……

だって  
命が女によりも  
価値があるのは

—つしなくて  
だからだ  
だからだ

だから  
がよがる  
わけない  
で

大層な人を  
亡くしたら  
そりや悲しいよ

でも

何かを始める  
事だつてある  
事だつてある

たとえ  
お前が誰に  
出たみたい  
に

そして俺が  
正義の味方を  
目撃すように

死ぬって  
悪いことばかりじゃ  
ないと思っただ  
だから……

自分を責めるな  
ギルがメツシユ

あの時の

奴の言葉に  
オレがどれ程  
救われたことか







一回きりにして  
やりたいんだ

俺と  
死に別れるの

だから頑なに……

んな事  
言っただけで  
さっさと会いに  
行ってやれ!

あつちはおめえに  
会ってえって  
泣いてんだぞ!

できない

俺が  
出て行ったら  
また

繰り返させ  
たくない

俺が死んだとき  
あいつは辛い  
思いをする

街宮士郎は  
思い出の中だけの  
存在でいい



突き放さないで  
あげてください！

それだけ  
オレから  
お願いします！



敵勢だと...？

アスタ  
戦にも出なまで  
引きこもってん  
だろ？

ああ

ズー！

備と色事に  
耽るのもいいが

たまには  
お天道さんの  
光浴びぬこと



体に染く  
ぬえからよ



一体誰の救しを得て  
英雄王たる我との  
蜜月を忘却するのだ!

崇高なる我が身を  
一生運独占し愛し抜く  
光輝を授けられておきながら  
なんたる無礼かッ!!



士郎  
悪い出せ士郎  
僕はギルガメッシュ

お前の最愛の男だぞ……ッ

救え切れぬほど  
この耳に愛の言葉を  
囁いたであらうがなあ

お前が契約した  
最強のサーヴァントにして



あんな……ッ

なぜ  
覚えておらぬ……

なぜ……ッ



一方的に  
この身を令呪で縛って  
おきながら……!!

あんまりでは  
ないか……ッ



……さげだ……



あアツ!?  
テメエ!

やっと  
見つけたぜ……!

おい  
しゃんとしろ!

訊きてえ事が  
あんだよ!

士郎ッ!!

テメエは何で  
俺に身体を貸したんだ?

金かねえ金かねえ  
ぬかしやがるけどよ

英雄になつたら  
あの金髪と胸金  
しちまうかも  
しれねえって

何故だ!

マスターだった  
アంతなら  
分かんらろ!?

ずっと  
引っかかって  
たんだよ……!

その氣になれば  
いくらでも俺を  
拒むことは  
出来たはずだっけな  
……!

……覚えてない

そんな事  
聞かれたって……



生きてる敵が

「体も肉もなんでも」



おいおい  
誰かか〜



…死体



…死体



死体の山



マアとかな管理が  
されてお工のか

それとさ

ヤベエ怪物でも  
飛び込んだか



拍子抜け…



拍子抜け…



頭では  
分かっていたのだ

……ふふ……

刀を握ってきたぞ……



そいつらか

「それ」が現れる可能性も

彼らの在り方

次々に現れる彼らの存在



……実はな

一度  
シロウと  
会ったんだ



僕は  
あなたが  
会いたがってる  
から

夢  
ン申でな

出てきて  
会ってやれと  
追った

……だが



キツバリ  
断られた

お前さんを何度も  
死別の苦しみに  
晒すのが  
嫌なんだと

俺のするべき事を…

俺がゴマラシム



久し振りに  
抱きしめた  
その身体は



想像以上の  
すべり感がある



この強く  
固い人を

どうしようもなく  
守りたくる



あいつが思い出させてくれた



俺を

傷められるか？













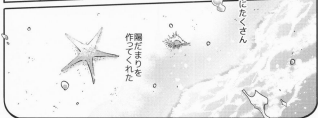
きらきらした  
光の粒が舞って  
いて

おまえの周りに  
いつも

宝石のような思い出



…海の世界にたくさん



思い出を  
作ってくれた



夢の内容は  
憶えてねえ



叫びたいほど  
懐かしい

胸を締め付けるような  
この胸への愛おしさだけが  
いつも残される



あいつとの  
記憶は

軽々しく  
そっくりな  
しやないもの



この身体が  
覚える

断片的な  
記憶の夢さえ



懐に  
抱えさせて  
おくのは

嫌いだ

それか

いっそ  
令呪を使って  
引っ張り出すか

ギルガメッシュは  
キミのサーヴァント  
なんだからね

令呪を令呪で  
律するのにも  
立派なマスターの  
仕事だ

現に  
それを望んでる  
アーチャーは  
多いと思うけど

…それだけじゃ

それだけは  
したくないです

令呪は  
サーヴァントを  
助けるための  
もので

無理矢理  
言うことを  
聞かせるための  
ものじゃないので

